

札幌市福祉のまち推進事業

10年のあゆみ

社会福祉法人 札幌市社会福祉協議会

はじめに

福祉のまち推進事業は、札幌市が策定した「札幌市地域福祉社会計画」と札幌市社会福祉協議会が策定した「地域福祉市民活動計画」において、地域福祉を推進する重要な事業として、平成7年度から札幌市と札幌市社会福祉協議会・各区社会福祉協議会が協力して進めています。

この事業は、幅広い市民の福祉活動への参加により、地域ぐるみで互いに支え合う環境を整え、誰もが安心して暮らせる地域社会をつくることを目的としています。

急速に進む少子・高齢化、核家族化や世帯人員の縮小化、都市化による人間関係の希薄化など、私たちが住む地域社会の環境は大きく変化し、地域で生活するうえでの福祉課題の内容も複雑になり、また多様になってきています。

こうした中で、公的な福祉制度も充実してきていますが、それだけですべての福祉課題が解決されるわけでは決してありません。制度の充実とあわせて、生活の拠点である住み慣れた地域で、住民の方々が主体となり共に支え合う地域福祉活動を進めていくことが必要になっていきます。

事業開始後、それまで地区社会福祉協議会で実施していた「ボランティア活動推進モデル地区指定事業」や「小地域福祉ネットワーク活動推進事業」などをはじめとする諸事業を基盤に、各地区で「地区福祉のまち推進センター」が順次開設しました。

各地区福祉のまち推進センターでは、関係団体・機関とも協働しながら、支援を要する方々への支援、交流、研修、調査、広報・啓発活動など、それぞれの地域の特色を生かして支え合いの活動が進められています。また一方では、この活動が広く市民に知られていない、活動の担い手が不足しているなど様々な課題もありますが、着実に活動の輪が広がってきています。

本書は、これまでの福祉のまち推進事業の歩みを振り返るとともに、今後の事業の一層の発展を願い作成しました。作成にあたり、座談会にご出席いただいた方々をはじめ、日頃からご尽力いただいている関係各位に厚くお礼申し上げます。

『札幌市福祉のまち推進事業 10年のあゆみ』

目 次

はじめに

○座談会

地区福祉のまち推進センター「10年を振り返って」…………… 3

○資料編

■福祉のまち推進事業に至るまで

- ・ ボランティア活動推進地区事業 [昭和 62 年度から平成 4 年度] …… 15
- ・ 小地域福祉ネットワーク活動推進モデル事業
[平成 5 年度から 7 年度] ……………… 15
- ・ 福祉のまち推進事業 [平成 7 年度から現在]…………… 16

■活動分野別にみる活動と統計

- ・ 平成 13 年度から 17 年度まで ……………… 18

■市社会福祉協議会の取り組み

- ・ 地区福祉のまち推進センター活動交換会 ……………… 24

座談会

地区福祉のまち推進センター 「10年を振り返って」

福祉のまち推進事業(以下/福まち)の取組みが開始されたのは平成7年。187万人を抱える大都市札幌において小地域における見守りや安否確認、支えあいを目指したふれあい交流活動の実施は地域の住民によって支えられています。

今回は、各地区で福まち活動に携わる方々にお集まりいただき、苦勞されたことや成果をあげたことなど、これまでの歩みをうかがいました。

また、福まちの今後の展望や、将来の方向性を意見交換するなかで深めた貴重な2時間をここに再現します。

参加者

中央区幌西地区福祉のまち推進センター 運営委員長	森 竹 俊 夫さん
北区北地区福祉のまち推進センター 副運営委員長	辻 野 キ ミさん
東区北光地区福祉のまち推進センター 事務局次長	掛 端 真知子さん
豊平区中の島地区福祉のまち推進センター 事務局次長	河 井 博さん
清田区北野地区福祉のまち推進センター 運営委員長	一 瀬 ヒ ロさん
西区在宅介護支援センター西野	乙 坂 友 広さん
厚別区社会福祉協議会 事務局次長	大 下 和 章さん
札幌市保健福祉局総務課 計画担当係長	手 塚 圭 希さん
司会 札幌市社会福祉協議会 地域福祉係長	辻 岳

地区福まちの開設

司会 本日はお忙しいところお集りいただき、ありがとうございます。



今回の座談会は、福祉のまち推進事業の歩みを振り返るとともに、各地区における開設の経緯や現状、および今後の活動指針などについてお話していただき、今後の福まち活動について深めたいと思っています。

まず、北区北地区の辻野さん、お願いします。

辻野 北地区では、保健師や社会福祉協議会の勧めで病弱者に対する「配食サービス」を始めたのが発端です。しかし、弁当だけ配っていいいいのか、という疑問がわき、悩んでいるところに O-157 の食中毒問題が世間を騒がせて、自分たちの手で弁当を作るのではなく、業者に依頼しなくてはならなくなりました。そうすると、今度は組織としての対応が求められ、集まった者たちで無い知恵を絞って立ち上げたのが、現在の福祉のまち推進事業、通称「福まち」というわけです。



司会 途中、何か大きな転機というか、問題はありませんでしたか。

辻野 平成 10 年に事務所を設けました。地区会館のなかに立派な事務所があるのに、何もしないのでは恥ずかしいという気持ちから、メンバーの意欲も高まり、さらに一生懸命に活動するようになりました。それが今日まで続いています。

司会 事務所の設置という点で共通する中央区幌西地区ではいかがですか。

森竹 幌西地区は地域福祉の歴史が深い場所です。地区の社会福祉協議会が設立された昭和 41 年に、福祉関係者が集まって、明るい住みよい町づくりと地域福祉事業の推進という基本計画を作りました。これは札幌市社協や区社協よりも先がけての動きでした。本格的に活動を開始したのは平成 5 年です。ボランティア活動推進モデル地区に指定され、その時の活動が後の小地域福祉ネットワークという形で継続されています。幌西地区では平成 8 年に福まちを設立。平成 15 年に「旭山公園通地区センター」が出来ました。その一室をいただいて活動拠点を作り活動を進めています。



司会 札幌のような大都市になると、住民の方々の協力を得ることは難しく、まして中心部となると、大変な困難があるのではないかと推察するのですが、各町内会ごとに福祉推進委員会を設けられるなど、きめ細かい活動をされていますね。

森竹 最初は福まち全体で、福祉推進委員会を立ち上げました。それを各町内会単位での活動に移行させたのは、平成 14 年からです。各町内会の福祉部長を中心に、きめ細かな活動をしていこうという考えなんですけど、まだ温度差がありますね。

司会 平成 8 年から 10 年にかけては、福まちの開設が多かった時期ですが、そのピークに設立された東区北光地区では、いかがでしたか。

掛端 北光地区は平成 10 年に設立しましたが、前年の平成 9 年に設立準備会を発足し、地区社協、連合町内会、民生委員児童委員協議会の各団体から 20 名を委員として設立にむけた検討を始めました。1 年がかりで組織の形態、運営の方法、予算、さらには各分区町内会における推進体制や具体的な事業の検討も進め運営要綱を作りました。



また、役員体制が出来た段階で、地域の関係者 130 名ほどにお集りいただき、設立に向けた説明会を経て、平成 10 年 6 月に開設されることになったのです。

司会 平成 10 年ではすでに活動を行っている地区もあり、先に出来ていた地区から前例として活動の状況が学べたと思いますがどうですか。例えば区社協とか行政との関わりも含めて、北光地区での開設や事業推進への関わりはいかがでしたか？

掛端 立ち上げの時は、福祉のまち推進事業という知名度が全くなくすべて手探りの状態で、東区社会福祉協議会へ何度も足を運び、運営や活動について相談に乗っていただきました。先に活動していた区内の苗穂東地区や、豊平区美園地区（愛称黄色いりんご）へ、事務局長や当時の連絡所長とうかがって学んできました。

私たちは、先に活動している皆さんの良いところを取り入れ、地域の見守り活動や75歳以上の方が暮らす世帯に対する見守り活動といった取り組みから始めました。幸いにも立ち上げ当初から地域の方のご協力をいただき、ボランティアの数は約200名で活動しており現在に至っています。

司会 北光地区では、開設する前の準備が万端だったわけですね。
北野地区ではいかがですか。



一瀬 北野地区の福祉のはじまりは平成5年。小地域福祉ネットワーク事業に指定され、モデル地区（町内会）を探していました。しかし、17ある町内会でモデルを受けてくれる町内会がなかなか見つからなかったのです。そんな時、ある高齢化率の高かった町内会が受けてくれました。そうした経過があつて平成8年3月24日に福まち事業をスタートした時も各町内会ごとに福祉推進委員会をおくことは抵抗なく進みました。他地域より先に取り組みましたので、他の地域からの視察は大変うれしいことですが、私たちの方が勉強させていただけるのが実情です。北野地区でも各福祉推進委員会の活動の温度差はあります。

また、70歳以上の高齢者が一人で暮らしている世帯への見守り、身体障がい者の方の見守りなどに取り組んできましたが、最近では逆に高齢者が地域の子も達を見守るといった動きが出てきました。これによって、高齢者の日々の暮らしに張り合いが生まれ、その力が安全安心のまちづくりの輪を広めています。

司会 今まで見守られる立場のお年寄りが、逆に自分たちにも出来ることはないかと立ち上がって、子どもたちを見守る側に回るといのは、素晴らしいことですね。北野地区の事例からもPRを含め福まちがやってきたことが確実に芽を出してきていると感じます。また同時に皆さんの大変な努力があつたのではないかと思うのですが、広報や協力者を探すという面で、何か工夫されたことはありますか。

一瀬 様々なイベントを通して、気持ちを育てることに重点をおいています。イベントには中学生・高校生のボランティアが参加した高齢者の方もいます。その中で交流を深め、優しい気持ちを育て、お互いに見守り合っていくという気運が高まってきました。福まち主催で行う「福祉まつり」では子どもたちやお年寄り、地域住民のほかに福祉施設や学校も参加していただき、地域内のさまざまな人が関わり、交流を深めています。

司会 豊平区中の島地区は、今日参加の5地区のなかでは、最も後発の開設ですが当初から「子育てサロン」を運営されています。経緯はいかがでしたか。



河井 設立は平成11年の4月で豊平区の中では最も遅い開設でした。立ち上げに際して苦労したのは、福まちとは何をする組織なのか私のもとより、地区の町内会連合会関係者もなかなか内容を理解できなかった点です。

理解してからも、高齢者の支援という部分では民生委員・児童委員（以下、民生委員）の方々と競合しないように、どうやって福まちの活動を広げていくか、模索して、いろいろ考えているうちに平成11年になってしまったというのが実状です。

12年度に実行したことは、やはり高齢者の見守りで、75歳以上の一人暮らしの高齢者の方々を対象としています。次年度の計画をたてる時には、要綱の中に盛り込まれていた「子育て支援」について、福まちで何が出来るのかと考えました。その結



北野地区
福祉まつり

果、中の島会館の60畳敷きの広間がありましたので、それを提供し今では子育てサロンとしてメイン事業の1つとなっています。

司会 今でも週1回のペースで活動されていますね。

河井 はい、金曜日の午前10時から12時まで行っています。実は中の島会館は改築をすることになり、これまで提供してきた畳の広間が使用できなくなります。近くに中の島中学校がありまして、その会議室を借りる予定になっていますが、これまで通り上手く運営していけるか、不安な状況です。

司会 子育てサロンでは長い実績がある中の島地区では、ほかにも、高齢者サロンの「あいあい」も運営されていますよね。

河井 在宅介護支援センターが出来た時に、連携して高齢者の健康づくりなどに取り組むことになりました。サロンは介護予防や認知症の予防につながりますが、健康づくりといっても堅苦しいことはせず、映画の上映などを主に行いました。「二十四の瞳」や「喜びと悲しみも幾年月」、「無法松の一生」などお年寄りに喜んでいただけるものが中心です。また前座として、北海道大学の落語研究会に協力していただきました。大変好評で、今後も是非続けていきたいと思っています。



中の島地区
子育てサロン

それぞれの機関からみた活動のふりかえり

司会 これまでの活動のなかで印象に残っていること、最初の頃と比べて現在ではこんな進歩がみられるなど、事業開始以降はいかがでしょうか。

辻野 福まちでは、札幌市から区社協を経て提供される高齢者名簿「65歳以上世帯名簿」を慎重に取り扱い活用しています。運営委員が書き写して厳重に鍵のかかる場所に保管しています。また、福まちでは「福祉相談室」を開設し、当番を設けさまざまな相談を受け付けています。今日も「敬老パスの交付申請ハガキがまだうちには来ていない」とか「近所のお宅から激しい親子げんかの声が聞こえる」とか、「生活保護を受けている方からの悩み」とか、様々な電話がかかってきていて、福祉相談室が地域の中の身近な相談場所として定着してきています。

また、私たちが返答できない質問や要望については、区役所や専門機関に連絡など適切に対応しています。



北地区
65歳以上地帯名簿

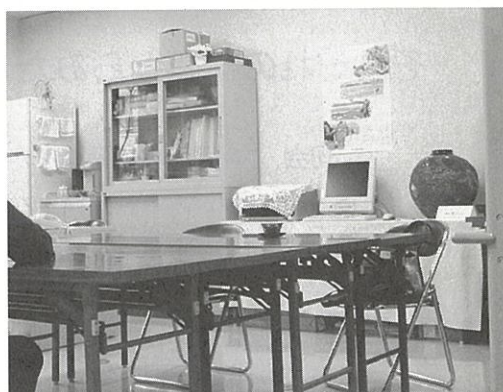
森竹 さかのぼれば、昭和63年から連合町内会福祉事業の「ふれあいのつどい」というのがありました。これは70歳以上で一人暮らしを余儀なくされている方を対象に最初は婦人部の有志が手づくりの食事会を始めたのがきっかけです。その活動が現在の福まちの事業として連合町内会と共催で続いています。そうした集まりに欠席した方に対しては一斉に安否確認をとるなど、次第に効率の良い活動の進め方が整ってきたという感じです。現在、最も難しく感じているのが福まちのPRです。私たちの地区ではシニアのパソコン教室を開きました。大変好評で、もっともっと広く福まちの活動を広報していきたいと考えています。パソコン教室以外には、男性の料理教室、フラワーアレンジメント、手芸教室など、お年寄りが集まりやすい事業を企画するなど、福まちの存在感をPRしながら活動領域を広げています。

河井 福まちの事務室など、そういう拠点のあるところが羨ましいですね。

森竹 幌西地区では地区センターの建設の際に、福まちの事務所などといった計画は全くありませんでした。それで私が建設委員に入ったものですから、是非作ってほしいと働きかけ一部屋設けてもらったんです。広さは約40㎡で、ある程度の会議やパソコン教室といった目的に使用出来るようになっています。北海道看護協会と共催し、

「まちの保健室」というのも始めました。これも拠点があればこそ出来ることのひとつだと思います。

辻野 北地区では、会館の中に管理人の部屋があったのですが、後任の管理人がいなくて廃止することになり、その場所を活用できないかという話になりました。それがきっかけで、拠点を確保できたわけです。炊事場からトイレも付いていて、大変便利です。今ではもっ



幌西地区活動拠点

と有効に使用していこうと話し合っ「いきいきサロン」を開いています。月に2回ですが、そこで昼食をとりながらお話をする楽しい場所になっています。

司会 福まち活動の経緯を各地区からいただきましたが、乙坂さんは在宅介護支援センターとケアマネジャー業務を両立しながら「すこやかクラブ」も含めて地域とかかわっていらっしゃいますが、どのように連携を図っていらっしゃいますか。

乙坂 多くの在宅介護支援センターは、当初、福まちとの連携があまりうまく進んでいなかったと思います。というのも、在宅介護支援センターは、札幌市からの委託事業でありながら、受託した法人や施設名がついていたため、福まちの皆さんからは民間色の強い印象をもたれ、連携することに対して警戒感をもたれました。

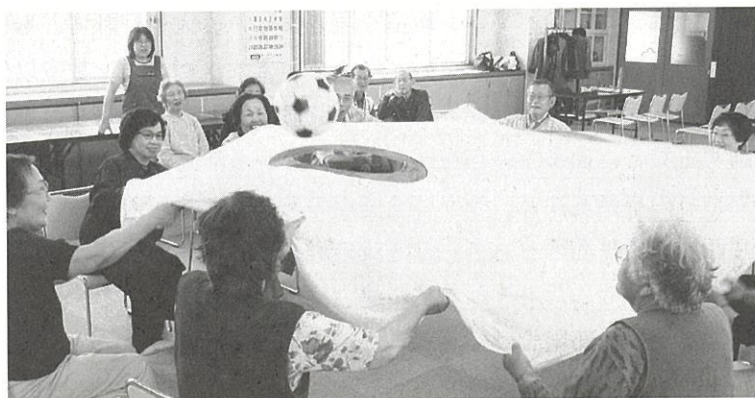


また、福まちは、それぞれの地区の福祉課題に応じて、地域の「やり方」によって事業を展開するため、それぞれの在宅介護支援センターが連携の仕方や分野について模索していたのも事実です。

しかし、平成14年に在宅介護支援センターの名称が変更されることとなり、地区名や住所上の名称を使用するようになったり、それまでの関わりの中で築いてきた信頼関係の中でようやく公の存在、あるいは地域の中の身近な相談窓口として認識していただき、理解が得られてきました。

福まちの中には、いまだに民生委員や町内会の福祉部などとの役割分担が明確になっていないところもあるかと思えます。様々な事業を通した中で、こうした課題についても福まちと在宅介護支援センターとが二人三脚で進めてきたと感じています。

司会 地域の中で役割分担が明確でない問題も、在宅介護支援センターが間に入ることに

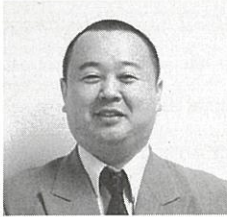


すこやか倶楽部

よって、整理された部分が多分にあったかと思います。北光地区ではいかがでしたか。
掛端 見守り活動では、在宅介護支援センターの協力は非常に頼りになりました。生活上の問題を発見した時は在宅介護支援センターと民生委員、そして福まちと三者が連携し、相談し合って毎年いくつかの困難なケースを克服しています。

司会 地区に対する支援とか、ボランティアの受給調整を行う区社会福祉協議会では地区福まちの動きを振り返っていかがですか。

大下 10年前、私は南区の社会福祉協議会にいました。当時、藤野地区が開設しており、大変進んだ地域でした。



なぜ良かったかという、北野地区と同じく小地域福祉ネットワーク事業を通して各町内会で活動を担っていくという下地があったのでスムーズに福まちに移行できたのだと思います。それと地域にそれぞれリーダーとなる方がいた、このことも成功の要因だと感じます。

ボランティアの需給調整では実際のコーディネートを担当するリーダーの存在が大きいです。区社協がいくら頑張っても、やはり地元のボランティアの方にはかないません。細かな点まで目が行き届くその経験や活動の積重ねに、福まち活動10年の重みを感じます。

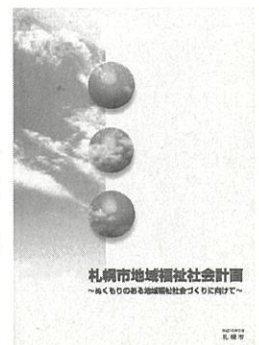
司会 札幌市からは、活動費や拠点の整備などで力添えをいただいています。何よりも札幌市地域福祉社会計画の重点事業に基づいた事業というのが大きな後ろだてになっていると思います。

手塚 皆さんの御苦勞をお聞きして、様々な経過があって福まち事業が育ってきたのだなと改めて感謝しています。行政では福祉のまち推進事業を計画に位置付けたのは平成7年ですから、都市化が進む中では先取り出来た施策だったと自慢して良いと思っています。



平成12年には介護保険制度ができ、「自分の住み慣れた土地で幸せに暮らしていこう」という方向に国も政策を転換してきました。そうした背景もあって、福祉のまち推進事業もより充実していこうという気運が盛り上がったのだと思います。皆さんの話をうかがっていても、福まちの底力は付いてきたと実感しています。平成18年1月現在、地区会館等のコミュニティ施設を中心に53カ所で福まち拠点を設けています。地区会館の増改築の計画数自体が減少してきておりますが、民間建物の借上げなど、いろいろな方法で引き続き拠点整備の支援を行っていきます。

また、高齢者リストの提供についても、平成9年に個人情報保護審議会の答申により、区社協を通じて福まちに提供されるようになりました。個人情報保護法の施行により、現在は区社協と地区福まちとの共同利用となっておりますが、安否確認やふれあいカード作成など、福まち事業の目的の範囲内での支援態勢を札幌市としても引き続き整えていきます。



多様化する福祉ニーズへの対応

司会 この10年間で大きく変わった点は、札幌市における地域福祉を考える中で、福まちを抜きにしては語れなくなったという点ではないでしょうか。特に、認知症の高齢者など支援が難しい方への対応や、子育て中の家庭を対象とした事業の展開など、地域に住む方にとって、福まちが「あて」にされ力になってきていると感じています。一方で、活動の幅が広がる中で、顕在化した課題もでてきたと思うのですが……。

一瀬 紹介したい事例としては、87歳になるYさんの個別検討会議があります。もう4年になります。この方は時々認知症の症状が出るんです。良好な時はお花を愛するすてきな人なんですけど、時折徘徊を始めるのです。私たちは、地域で見守る先は病院なり施設に入ることを勧め、そのための方策もいろいろ試みたのですが、ご自分の家で生涯を終えたいと言って聞き入れてくれませんでした。その後、検討会議を重ね年月が過ぎるにしたがって、Yさんにはご自分の家で最後を迎えさせてやりたい、と思うように私たち自身が変わってきました。

検討会議には、通院していた病院の看護師をはじめ、地域型在宅介護支援センター、基幹型在宅介護支援センター、担当されている民生委員の方と地区民児協会長、ケアマネジャー、そして私たち福まちとYさんを担当する福祉推進委員が集まっていますが、検討を重ね見守るうちに皆さん、Yさんのことを自分の親のように、肉親のように思えてきたんですね。

施設に入れることばかり考えていた私達は、Yさんが一番幸せな形で過ごせるように、最後まで見守っていこうという結論に達したんです。

辻野 北地区では月に2回、75歳以上のお年寄りが12~13人集まり食事会を行っています。すると朝の10時から2時まで、おしゃべりが続きます。楽しくて帰りたいくないという声も聞こえるほどです。お年寄りといっても、皆さん私より年下なんです。これはまさに老老介護です。ですから、もう少しこうした場に若い人が参加してほしいと思っています。

森竹 10年経って、高齢者が高齢者を見るといった時代が本格的にきていると感じます。私たちもどうやって若い人を引き入れるかが大きな課題になっています。現在、行っているのが校区の児童を犯罪被害から守るために「幌西小学校子どもを守る会」というのが設立されています。地域と学校と一緒に立ち上げた組織なので、そこに出来るだけPTAに働きかけ、親御さんを引き込もうとしているのですが、なかなか参加してくれる人はいませんね。

河井 中の島地区では各町内会から活動者を3人推薦していただき30人でスタートしましたが、民生委員ではない方をお願いしました。しかし、それから6年も経過して年を重ねていますから、そろそろ辞めたいという声が出始めています。若い人材の確保というのは、悩む点ですね。

それと、子育てサロンを続けるなかで、お母さんたちと話しているなかから悩みごとなどがだされるようになりました。時には、自分のことだけでなく、ご近所で気になる親子についての声を聞くこともあります。心配な方がいて、難しい問題が

出てきたら、区役所の子育て担当や保健センターに連絡したり、民生委員につなぐといった対応をとっています。

一瀬 子育てサロンに参加してくるお母さんは心配ないですね。家の中にいて出られない、閉じこもっているようなお母さんが心配です。私たちの地区にも、実際にそういうお母さんがいました。パニック症候群や不安症などの病気を抱えていましたが、町内の福祉推進委員や主任児童委員で支援をして今はお元気です。

司会 難しい支援が増えているようですが北光地区では具体的な支援事例がありますか？

掛端 平成16年のことですが80歳を超える一人暮らしの女性の方で閉じこもりがちの方でした。心を開いてもらうのに民生委員の方も苦勞されていましたが、その年の冬が大雪で女性の家が古い家屋だったため、雪の重みで倒壊の危険な状態になりました。そこで東区の社会福祉協議会を始め、消防署、警察署、区役所のご協力を得て、屋根の雪下ろしを行ったんです。これを契機に、誰かを支援するためには福まちだけでは難しい、やはり関係する機関や地域の皆さんと連携し協力し合っていかなければ出来ないことを改めて認識しました。

今後の福まち活動への期待

司会 北光地区では、個別支援の事例から連携やネットワークの必要性を感じていらっしゃると思いますが、幌西地区では、関係機関との連携・協力はどのように調整されていますか。

森竹 防犯、防災、交通などが、福祉と一緒に動いていかなければならない時が来ていると思います。その中心になるのが、まちづくりセンターだと思っています。今後も行政とのパイプ役、あるいは各ネットワークをつなぎ情報交換していくといった、まちづくりのコーディネーターとして機能してほしいと思います。将来は、そうやっていかなければならない時代が来ると思います。

掛端 北光地区では先程の事例を契機に「福祉のまちづくりネットワーク連絡会」をつくらうと意見が一致しました。さまざまな機関や団体と勉強会や研修会を重ね、平成17年の11月に立ち上げることになりました。このネットワークは、北光地区の全ての人に対して深く関わり、地域の方から問題を寄せていただき、協力して問題解決していくというスタンスに立っています。もちろん、福まち側からも問題提起して



北光地区
ネットワーク連絡会

いきます。お互いに協力していこうという双方向の形のなかで活動をすすめていきたいと思っています。

また、地区には子育て支援、健康づくり、町内会活動など、それぞれの団体のネットワークがあり、その連携の調整役を果たしているのが、「まちづくり協議会」です。先程の「福祉のまちづくりネットワーク連絡会」は「まちづくり協議会」の一員である地区社会福祉協議会のなかに組織されています。

司会 連携・ネットワークには欠かすことのできない在宅介護支援センターとしては、どのように感じていますか。

乙坂 介護が抱える様々な問題はまだまだ表立って出てきていない気がしています。今後、いろいろな問題に直面することでしょう。我々ケアマネジャーも、点と点をつなげていくことが仕事だと思っていますが、どこからどこへつなげていくのが良いかという部分に最も神経を使っています。つなげる点と点の関係性が悪ければそこで途切れてしまいますから。福まちを中心に地域と連携しながら来るべき高齢社会に対応し、安心して住める地域社会を構築していきたいですね。

ところで、見守り活動や安否確認のもっとも中核となる、各町内会を単位とした福祉推進委員会の大切さや重要性といった部分ではいかがでしょうか。

掛端 北光地区は12の町内会があって、その町内会を軸として福祉推進部会が来ています。その担い手になっていただいているのが、町内会長をはじめ社会福祉部、女性部などの役員の方々です。

ボランティアについては、見守りが必要な世帯をマンツーマンで見守りしていただいています。

ボランティアは、地区社協、連町の役員、民生委員、青少年育成委員の方もいらっしゃいます。皆さん、ボランティアに申し込みいただいて、活動の時は肩書きをはずし、1人のボランティアとして見守り活動とか声かけ活動に当たっていただいています。また、北光地区では民生委員なしでは、福祉まちが進める見守りや安否確認はできないというのが現状です。ですから、今後も地区の民生委員児童委員協議会とは、お互いに情報交換や協力し合って、連携を強化していきたいと思います。福まちの大きな役割は、先ほど皆さんも述べられていたとおり、さまざまな社会サービスにつなげることだと思います。支援を求める状況により、在宅介護支援センターや区役所、社会福祉協議会などへのつなぎ役だと思っています。

司会 最後に区社協、札幌市それぞれのかかわりから地区福まちに対する期待をお聞かせ下さい。

大下 土曜日の夜などに会議に出席させていただくのですが、皆さんから「よく来てくださいました、すみません」と言われます。しかし、私たちは仕事で来ているのであって、皆さんの方がお忙しい時間を削ってボランティア活動されているわけです。これには本当に頭が下がります。ですから、もっともっと区の社会福祉協議会を使っていたきたいと思います。皆さんの熱心な活動を見ていますと、単純に年齢で判断できないのだなと感じました。精神的に熱い皆さんに原動力となっただけ、まちづくりに励んでいただければ、真の生きがいづくりが出来ると思うのです。そうすれば若い人を引っ張っていくことも出来ると考えています。

手塚 福まち活動の連携団体の1つである在宅介護支援センターとの連携は、大きな効果となっていることをより感じました。今後さらに、すこやか倶楽部や転倒予防教室の紹介などで協力していきたいと思いました。

また担い手では、これから団塊の世代が一斉に退職してくるので、そういう方たちを、地域にどう取り込んでいくかを考えたいと思います。

最後に、まちづくり協議会との連携がスムーズにいけば、福まちの取り組みがいつそう大きな動きとなってくるのではないかと感じました。

例えば、災害時の要援護者対策についても、福まちがまちづくり協議会のなかで活躍することが、地域にとってもプラスとなるのではないかと期待しています。

今後も皆様方からの、ご意見ご指導をいただき、ともに歩んでいきたいと思っています。

司会 みなさん、今日は忙しい中、熱心なご議論をいただき誠にありがとうございました。今の福まちがあるのも、地域で熱心に活動を続けてこられた皆さん方の創意工夫と熱意のたまものだと感じましたし、何より、札幌市における地域福祉を考えると、福まちを抜きにしては語れないということを強く感じたところです。

今後の福まち活動、さらには地域福祉の推進に向けた貴重なご意見、課題などいただきました。解決していくには時間のかかる課題も多いかと思いますが、いずれにせよ、解決に向けては福まちだけで考えては進まないと思っています。お話しの中でご指摘のあったとおり、在宅介護支援センター等の専門機関や行政、さらには地域内の様々な団体・企業、NPOなど、多くの機関との連携、ネットワークの構築が今後ますます大切になってくるものと思われま。

社会福祉協議会としても、こうしたネットワークの構築も含めて、これまで以上に皆さま方と一緒に福まち活動を進めていく所存ですので、今後ともよろしくお願ひしたいと思っています。

本日は誠にありがとうございました。

この座談会は、平成18年2月17日に行われたものを掲載しました。

資料編

福祉のまち推進事業に至るまで

ボランティア活動推進地区事業 [昭和 62 年度から平成 4 年度]

目 的

地域住民の福祉への関心と理解を高め、社会連帯を養うとともに、地域ぐるみのボランティア活動を推進することを目的とします。

指定地区 84 地区中 71 地区

成 果

- ① ボランティア活動が広がった
 - ・ごく一部の熱心な人 → ひろく一般の人への参加
 - ・施設や団体など限られた場所 → 地域における活動
 - ・ある特殊な技術を活用した特別な活動 → 自分のできることを中心とした活動
- ② 地区社協の基盤整備が進んだ
 - ・助成金の「受け皿」的な団体 → 地域の福祉課題を解決していく団体
 - ・研修を通して役員を中心に「地域福祉」の必要性が広まった。

課 題

- ① 地区社協役員のみ理解（一般住民等までの周知が不十分）
- ② 方法論の未整備（理念先行）
- ③ 地域住民への認知不足

小地域福祉ネットワーク活動推進モデル事業 [平成 5 年度から 7 年度]

目 的

ネットワーク活動とは、一人ひとりのやさしい気持ちが出発点となり、地域住民の参加・協力による、日常生活の手助けや声かけ、見守りによる安否確認といったささやかな活動と、公的な在宅福祉サービスの利用を有効に結びつけながら、人々が安心して暮らすことができる地域社会をつくる活動です。

指定地区 6 地区（中央区苗穂地区、北区北地区／幌北地区、東区元町地区、清田区北野地区、南区藤野地区）

成 果

- ① 活動の進め方が具体的になった
 - ・町内会を範囲とした福祉推進委員会（福祉の会）の設置
 - ・福祉推進員・住民協力員の選任、役割の明確化
 - ・「ふれあいカード」等を活用した要援護者の把握
 - ・専門機関の参加
 - ・活動の種類分類（安否確認、日常生活支援活動）

課 題

- ・活動に対する信頼性の欠如
- ・高齢者等の情報不足
- ・専用拠点の未整備

福祉のまち推進事業 [平成7年度から現在]

福祉のまち推進事業は、幅広い市民の福祉活動への参加により、地域全体でお互いに支えあう環境を整え、だれもが安心して暮らせる地域社会の実現を目的として、平成7年度から実施している。事業を進めていくために、市民の方々による自主的な福祉活動を行う組織として、地区社会福祉協議会（概ね連合町内会）ごとに「地区福祉のまち推進センター」を設置し各地区で活動を行うとともに、各区社会福祉協議会は「区福祉のまち推進センター」として、地区の活動を支援したり、区内のボランティア活動の振興を図っている。

また、市社会福祉協議会は、区・地区社会福祉協議会での活動支援や全市的なPR活動を中心に事業を展開している。

① 地区福祉のまち推進センター活動状況

地区福祉のまち推進センターは、平成7年度から順次開設され、平成15年度には地区社会福祉協議会が設置されている88地区すべてが開設に至っている。

その活動は①広報・啓発②調査・研究③学習・研修④ふれあい交流活動⑤日常生活支援活動の5項目を基本としており、その他にも地区の状況により様々な活動を実施している。

ア) 地区福祉のまち推進センター開設地区

区	平成7年度	平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	計
中央	苗穂	宮の森大倉山、幌西、大通	山鼻	南円山、曙	東、桑園	西、円山	西創成	東北、豊水		14地区
北	幌北、北、新琴似	太平百合が原	新琴似西、屯田、拓北・あいの里	鉄西、麻生、新川、篠路						11地区
東	元町	鉄東、苗穂東	伏古本町、栄西、北栄	北光、栄東、丘珠	札苗					10地区
白石	東札幌、菊水、北東白石		白石、東白石、白石東、北白石	菊の里						8地区
厚別	もみじ台	青葉	厚別東、厚別西、厚別南	厚別中央						6地区
豊平	美園	平岸	福住、東月寒、豊平	西岡、南平岸	月寒、中の島					9地区
清田	北野	平岡	清田	里塚・美しが丘	清田中央					5地区
南	藤野、真駒内	澄川	簾舞	芸術の森、藻岩	藻岩下、石山、南沢				定山溪	10地区
西	西町	発寒	八軒中央、八軒、発寒北	山の手、琴似	西野					8地区
手稲	新発寒	星置、手稲中央	手稲鉄北、稲穂金山	前田、富丘西宮の沢						7地区
計	15地区	13地区	24地区	20地区	10地区	2地区	1地区	2地区	1地区	88地区

② 区福祉のまち推進センター活動状況

区福祉のまち推進センターは、地区福祉のまち推進センターに対して、活動費の助成、地域福祉活動情報の提供、活動内容・実施方法の提案・助言などの側面支援を進めるとともに、ボランティアセンターとして、ボランティア活動についての相談・情報提供、活動場面の斡旋、ボランティア講座・研修会の開催などを行っている。

ア) 区福祉のまち推進センターの主な活動内容

ボランティアセンター運営	ボランティア連絡会、サロン、ボランティアコーディネート
福祉のまち推進グループ	地区福まち支援・情報提供・活動交換、地区モデル活性化事業
ボランティア等の啓発・普及	ボランティアニュース発行、福まちかわら版
ボランティア研修	ボランティアスクール、地区福祉推進員等研修、リーダー研修
地域福祉ネットワーク	地域福祉に関わる団体の活動に関する協議、情報交換

活動分野別にみる活動と統計

平成13年度 84地区 / 14年度 87地区 / 15年度以降 88地区

広報・啓発活動 活動項目	13年度		14年度		15年度		16年度		17年度	
	地区数	割合(%)	地区数	割合(%)	地区数	割合(%)	地区数	割合(%)	地区数	割合(%)
○広報誌等作成・配布	53	62.4	46	52.9	50	56.8	57	64.8	53	60.2
○チラシ配布	41	48.2	45	51.7	54	61.4	56	63.6	64	72.7
○他の広報誌による広報	37	43.5	32	36.8	33	37.5	36	40.9	38	43.2

・ふれあい交流活動で、ミニサロンや子育てサロンが増加するに伴い、行事周知のチラシ配布地区が増加している。

調査・研究活動 活動項目	13年度		14年度		15年度		16年度		17年度	
	地区数	割合(%)	地区数	割合(%)	地区数	割合(%)	地区数	割合(%)	地区数	割合(%)
○援助対象者名簿・カード等作成	34	40.0	43	49.4	49	55.7	60	68.2	63	71.6
○高齢者等状況（ニーズ調査）	30	35.3	35	40.2	37	42.0	33	37.5	41	46.6
○住民福祉意識調査	7	8.2	4	4.6	5	5.7	6	6.8	3	3.4
○福祉マップ作成	3	3.5	5	5.7	6	6.8	10	11.4	7	8.0

・対象者名簿の整備、ふれあいカードの作成、記録表作成地区が継続されている。
・福祉推進委員会の整備や運営委員会・部会などでの、活動状況把握の成果である。

学習・研修活動 活動項目	13年度		14年度		15年度		16年度		17年度	
	地区数	割合(%)	地区数	割合(%)	地区数	割合(%)	地区数	割合(%)	地区数	割合(%)
○福祉推進員・協力員研修	64	75.3	67	77.0	66	75.0	69	78.4	68	77.3
○一般住民向け研修会	17	20.0	28	32.2	29	33.0	35	39.8	35	39.8
○他地区視察	24	28.2	17	19.5	12	13.6	12	13.6	15	17.0
○施設見学等	36	42.4	41	47.1	42	47.7	40	45.5	36	40.9

・他地区視察が減少している理由には、区社協ごとの情報交換や交流の取り組みが増えていることが考えられる。
・全体的に研修の機会は増えており、中でも一般住民にも対象を広げ研修を行う地区が増えている。

ふれあい交流活動 活動項目	13年度		14年度		15年度		16年度		17年度	
	地区数	割合(%)	地区数	割合(%)	地区数	割合(%)	地区数	割合(%)	地区数	割合(%)
○会食・配食会	72	85.7	72	82.8	64	72.7	66	75.0	68	77.3
○入浴会・日帰り入浴会	29	34.1	29	33.3	34	38.6	33	37.5	37	42.0
○異世代交流	25	29.4	37	42.5	39	44.3	45	51.1	44	50.0
○イベント開催・招待	25	29.4	27	31.0	33	37.5	34	38.6	27	30.7
○子育てサロン	17	20.0	25	28.7	36	40.9	43	48.9	56	63.6
○ミニディ・ミニサロン	15	17.6	38	43.7	41	46.6	36	40.9	42	47.7
○すこやか倶楽部等在宅介護支援センター事業協力	7	8.2	20	23.0	22	25.0	27	30.7	38	43.2
○年賀状等発送・祝品等贈呈	10	11.8	9	10.3	9	10.2	11	12.5	11	12.5
○料理教室	2	2.4	3	3.4	3	3.4	3	3.4	3	3.4
○健康づくり事業	—	—	13	14.9	23	26.1	24	27.3	20	22.7

- ・地区全体で行われた会食会や入浴会等の行事は、減少傾向にある。
- ・身近な地域でのふれあいを目標に、ミニサロン・子育てサロンへの取り組みが増えている。
- ・子育てサロンや異世代交流など、児童を対象とした取り組みが年々増えている。
- ・在宅介護支援センターとの連携で、すこやか倶楽部への共催・支援も著しい増加にある。
- ・新たに、健康づくりを目的に、ラジオ体操、ウォーキング、体操教室等の取り組みを行う地区がみられる。

日常生活支援活動 活動項目	13年度		14年度		15年度		16年度		17年度	
	地区数	割合(%)	地区数	割合(%)	地区数	割合(%)	地区数	割合(%)	地区数	割合(%)
○訪問・電話等安否確認	63	74.1	64	73.6	67	76.1	71	80.7	64	72.7
○除雪	44	51.8	47	54.0	42	47.7	43	48.9	47	53.4
○福祉・生活相談	17	20.0	19	21.8	24	27.3	24	27.3	19	21.6
○家事援助・育児	19	22.4	22	25.3	21	23.9	28	31.8	22	25.0
○外出介助	13	15.3	15	17.2	13	14.8	12	13.6	15	17.0
○通報システム	8	9.4	8	9.2	8	9.1	8	9.1	8	9.1
○介護支援	6	7.1	11	12.6	9	10.2	10	11.4	11	12.5

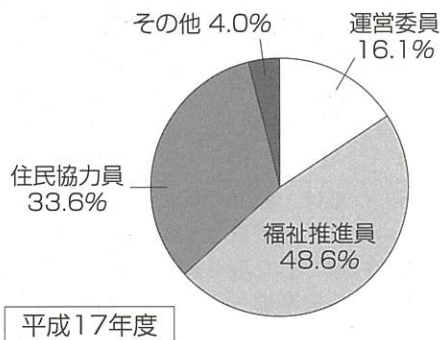
- ・日常支援活動では、訪問や電話による安否確認活動が例年増加しており8割以上の実施率となった。
- ・具体的な支援活動（外出介助等）は、取り組みが可能となる体制づくり（担い手の養成やコーディネートの必要性）が求められるため、新たに活動を開始する地区がなかなか増えていない状況にある。

1 福まち活動を支える活動者、組織体制

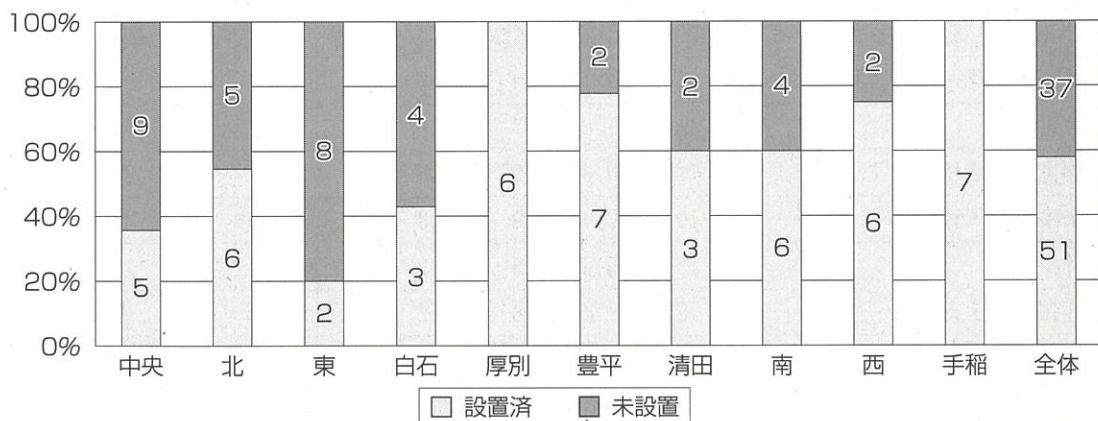
(1)組織体制	14年度	15年度	16年度	17年度
○運営委員会の設置	80地区	81地区	81地区	82地区
○活動別部会の設置	45地区	48地区	49地区	51地区
○事務局の設置	55地区	56地区	56地区	73地区

(2)活動者人数	14年度	15年度	16年度	17年度
○運営委員	1,970人	2,015人	1,940人	1,753人
○福祉推進員	6,002人	5,923人	6,124人	6,162人
○住民協力員	4,576人	4,341人	4,433人	4,269人
○その他	413人	253人	433人	508人
合計	12,961人	12,532人	12,930人	12,692人

※運営委員人数…運営委員会未設置地区は地区社協役員数で計上



活動別部会設置状況 (平成17年度)

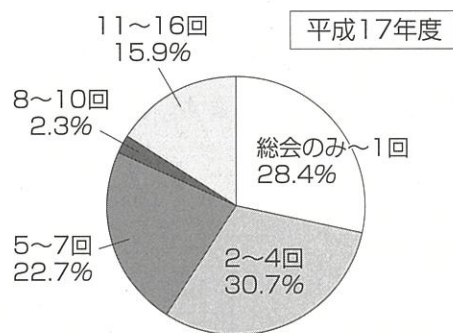


2 話し合い・打ち合わせ

(1)運営委員会の開催	14年度		15年度		16年度		17年度	
	回数	地区数	割合(%)	地区数	割合(%)	地区数	割合(%)	地区数
○総会のみ～1回	35	40.2	36	40.9	38	43.2	25	28.4
○2～4回	31	35.6	32	36.4	25	28.4	27	30.7
○5～7回	10	11.5	7	8.0	12	13.6	20	22.7
○8～10回	2	2.3	1	1.1	2	2.3	2	2.3
○11回以上	9	10.3	11	12.5	11	12.5	14	15.9
○随時	0	0.0	1	1.1	0	0	0	0.0

(2)事務局会議(役員会)	14年度		15年度		16年度		17年度	
	回数	地区数	割合(%)	地区数	割合(%)	地区数	割合(%)	地区数
○1～4回	16	18.4	17	19.3	12	13.6	9	10.2
○5～7回	13	14.9	14	15.9	14	15.9	16	18.2
○8～10回	6	6.9	2	2.3	2	2.3	3	3.4
○11～12回	9	10.3	15	17	13	14.8	16	18.2
○13回以上	7	8.0	4	4.5	8	9.1	5	5.7
○随時	4	4.6	4	4.5	7	8	24	27.3

【運営委員会開催数の推移】



○その他の会議の開催（平成17年度）

- ・福祉推進委員会（単町）の会議・意見交換会 13地区（+3地区）
- ・福祉推進員、住民協力員の会議や懇談 8地区（-2地区）
- ・関係団体（民児協やボラ団体・サロン代表者）との懇談会 10地区（+3地区）

※（ ）の数字は前年度比

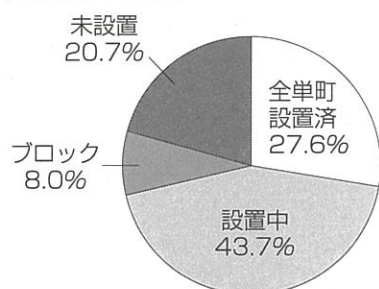
3 福祉推進委員会（福祉の会）の設置

	14年度		15年度		16年度		17年度	
(1)設置地区数	50地区		61地区		69地区		69※地区	
○単位町内会ごとに設置	43	地区	53	地区	62	地区	62	地区
範囲	702	町内会	696	町内会	762	町内会	826	町内会
○ブロックごとに設置	7	地区	8	地区	7	地区	8	地区
範囲	35	ブロック	35	ブロック	33	ブロック	38	ブロック
	238	町内会	249	町内会	168	町内会	182	町内会

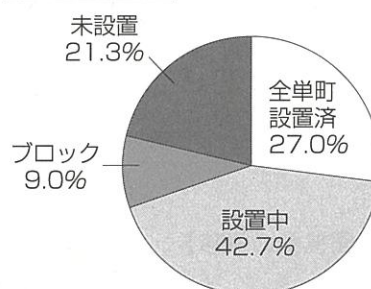
※地区全域でブロックを活用しながら、単位町内会の一部で福祉推進委員会を設置している地区で重複している。

【福祉推進委員会設置状況の推移】

平成16年度



平成17年度



福祉推進委員会では、地区数はほぼ同様の結果となっているが、16年度より64多い826単町の範囲で福祉推進委員会が設置されています。

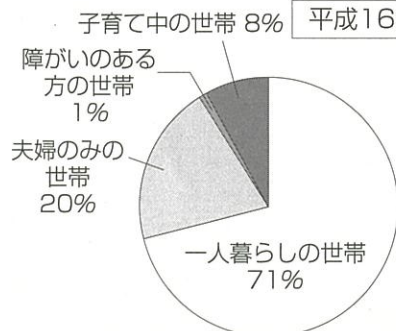
4 要援助世帯の状況

1) 世帯の内訳

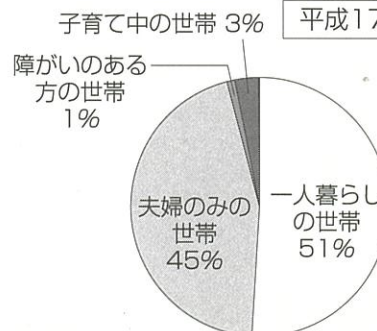
- 一人暮らしの世帯
- 夫婦のみの世帯
- 障がいのある方の世帯
- 子育て中の世帯
- その他（日中高齢者のみの世帯など）

14年度	15年度	16年度	17年度
16,776	15,584	19,077	24,027
3,538	4,485	9,346	20,783
173	249	373	353
1,468	1,875	2,292	1,353
72	62	14	77
22,027	22,255	31,102	46,593

平成16年度



平成17年度



2) 対象世帯への日常支援でのかかわり

- 訪問
- 除雪支援
- 外出支援
- 家事や育児の支援
- 介護支援
- その他（薬とり・ゴミだし・車いすの貸出しなど）
- 合計

14年度	15年度	16年度	17年度
12,842	12,204	15,686	18,177
1,252	1,452	1,630	1,590
97	146	183	91
1,040	761	1,024	332
57	108	228	10
70	48	21	4,033*
15,358	14,719	18,772	24,233

※ 17年度統計から、見守り世帯として把握できる範囲の世帯数を、その他へ計上しています。

3) 地区で対象としている対象世帯の状況

- 高齢者—独居世帯のみ
- 高齢者（独居・夫婦）世帯のみを対象
- 高齢者以外（障がい・子育て）も対象

14年度	15年度	16年度	17年度
41	25	22	22
13	11	11	13
30	36	43	42

これまで独居高齢者のみを対象としていた地区でも、調査活動によるニーズ把握で新たに夫婦世帯や障がい者世帯を対象にしたり、ふれあい交流事業での子育て支援（子育てサロン）の実施などにより、対象世帯も広がっています。

5 要援助世帯の把握・活動記録

- ふれあいカードなどで把握している
- 援助世帯ニーズ調査を実施している
- 福祉マップの作成
- 住民の意識調査の実施

14年度	15年度	16年度	17年度
43	49	60	63
35	37	33	41
5	6	10	7
4	5	6	3

市社会福祉協議会の取り組み

地区福祉のまち推進センター活動交換会

【平成8年度】

日時 5月30日(木)13:30~16:30

場所 札幌市社会福祉総合センター

内容

- 基調説明 「お互いに支え合う“やさしい街”をめざして」
札幌市社協事務局長 岩本守正
- 実践発表
北区幌北地区社協 会長 深田利雪
厚別区もみじ台地区社協 副会長 五十嵐美德
- グループ討議（5グループ）
 - ①推進センターの運営、事務局機能の強化について
発表者 手稲区新発寒地区福まち 事務局長 松田初夫
司会/助言 豊平区社協事務局次長 長谷誠二/北区社協事務局長 佐藤隼人
 - ②女性の特質を生かした活動について
発表者 中央区苗穂連合町内会 婦人部長 石垣寿枝
司会/助言 中央区社協事務局次長 山下雅寿/中央区社協事務局長 川本明弘
 - ③情報の共有とプライバシーの問題について
発表者 白石区菊水地区民児協 総務 小山輝雄
司会/助言 白石区社協事務局次長 斉藤宏子/厚別区社協事務局長 手嶋慎一
 - ④単位町内会における福祉活動の推進方策について
発表者 西区西町連合町内会 会長 佐々木秀雄
司会/助言 西区社協事務局次長 浜田和美/西区社協事務局長 近藤吉秋
 - ⑤推進センターと地域団体との連携方法について
発表者 ボランティアグループ たんぽぽふじの 代表 佐藤和子
司会/助言 北区社協事務局次長 小平正治/南区社協事務局長 川越章善

【平成9年度】

日時 12月3日(水)10:00~15:30

場所 札幌市社会福祉総合センター

内容

- シンポジウム 「あたたかい地域を支える仲間づくりを考える」
発表者 東区苗穂福祉ふれあいテン 運営委員長 吉谷 純
豊平区北野地区福まち 運営委員長 一瀬ヒロ
手稲区手稲中央地区社協 事務局長 樋口哲雄
助言 南静会 医療福祉部長 岩見太市
司会 札幌市社協地域福祉係長 中路康夫

○グループ討議（5グループ）

①地域住民のエネルギーを集結できる組織づくり

発表者 厚別区もみじ台地区福まち 副運営委員長 麻生昭治
司会 厚別区社協事務職員 佐藤 聡

②地域のキーパーソン・ボランティアの発掘

発表者 豊平区美園地区福まち 副運営委員長 石井志津子
司会 豊平区社協事務職員 高橋 愛

③本人との信頼関係を大切にした活動

発表者 手稲区星置地区福まち 副運営委員長 長岡 巖
司会 手稲区社協事務職員 吉藤義知

④住民の身近な問題から福祉活動は始まる

発表者 南区簾舞地区福まち 事務局長 柴田涼子
司会 南区社協事務職員 辻 岳

⑤地域関係団体との連携による福まちづくり

発表者 北区太平地区福まち 運営委員会幹事 松尾敏子
司会 北区社協事務局次長 小平正治

○全体会「高齢期を生きる福祉コミュニティ ～これからの活動にむけて」

講師 南静会 医療福祉部長 岩見太市

【平成10年度】

日時 10月29日(木)13:30～15:30

場所 札幌市社会福祉総合センター

内容

○活動発表I

①調査・点検活動

「高齢者の安否確認及びニーズ調査～調査データの集計から～」

発表者 東区鉄東地区福まち 事務局長 畠田松一

②学習・研修活動

「福祉推進員・協力員研修会～地区ボランティアの育成」

発表者 厚別区厚別東地区福まち 運営委員長 太田義夫

「福祉推進員研修会～広報による意識づくり～」

発表者 南区藤野地区福まち 事務局長 塩野公平

○活動発表II

③ふれあい交流活動

「高齢者押し花教室～地域の出会い・ふれあい活動」

発表者 中央区宮の森大倉山地区福まち 副運営委員長 大森郁子

「ふれあいネットワーク活動～老若男女も元気はつらつ」

発表者 豊平区平岸地区福まち 運営委員長 入倉正造

「お楽しみ会～福まちお楽しみ会がはじまるよ」

発表者 西区八軒地区福まち 事務局長 磯部定成

【平成 11 年度】社会福祉総合センター

日時 10月28日(木)10:00~15:30

場所 札幌市社会福祉総合センター

内容

○基調講演 「介護保険によって何が変わる」

講師 札幌市社協地域活動参事 岩見太市

○シンポジウム 「新たな地域福祉のネットワークのあり方を考える」

発表者 札幌市豊平区地域保健課 主査 鈴木はるみ

西区セージュ山の手在宅介護支援センター 所長 堀井岐子

札幌市在宅福祉サービス協会北ヘルパーセンター 所長 工藤 博

司会 札幌市社協地域活動参事 岩見太市

○分科会

①福まち組織のあり方を考えてみよう

発表者 中央区福祉プラザなえぼ 会長 上野治美

司会 中央区社協事務局次長 馬場伸哉

②地域の社会資源を上手に取り込もう

発表者 北区拓北・あいの里地区福まち 事業部長 高澤貞治

手稲区在宅介護支援センター秀友会 副センター長 窪田京子

司会 北区社協事務局次長 斉藤宏子

③福まちの事業メニューについて考えてみよう

発表者 豊平区美園地区福まち 運営副委員長 石井志津子

司会 豊平区社協事務局次長 金森晁睦

④福まちの財源について考えてみよう

発表者 南区簾舞地区福まち 運営本部長 本間正夫

司会 西区社協事務局次長 中路康夫

⑤地域のマンパワーを発掘しよう

発表者 西区発寒地区福まち 運営委員長 馬場強逸

司会 手稲区社協事務局次長 松原幸一

⑥福まちについて何でもいいから語ろう

発表者 東区苗穂福祉ふれあいテン 事務局長 吉谷 純

東区社協事務局次長 浜田和美

【平成 12 年度】

日時 10月30日(月)10:00~15:40

場所 札幌市社会福祉総合センター

内容

○基調講演 「ふれあい・いきいきサロンのすすめ！」

講師 東京都世田谷区社協 事業部長 古関 学

○シンポジウム 「いま、なぜ“ふれあい・いきいきサロン”のような仕掛けが必要なのか！」

発表者 東京都世田谷区社協 事業部長 古関 学

おしゃべりとお昼の会 代表 下村笑子

ふれあいネットワーク平岡北 代表 横山由美子

東区ウィズ東苗穂在宅介護支援センター 社会福祉士 佐藤珠美

司 会 札幌市社協地域ケア部長 岩見太市

○分散会 「ふれあい交流活動について考える “高齢者よ外に出よう”」

①発表者 世田谷区社会福祉協議会 事業部長 古関 学

おしゃべりとお昼の会 代表 下村笑子

司 会 札幌市社協ボランティア推進係長 佐藤 聡

②発表者 東区ウィズ東苗穂在宅介護支援センター 社会福祉士 佐藤珠美

司 会 札幌市社協地域ケア係長 柏 浩文

③発表者 中央区宮の森大倉山地区福まち 副運営委員長 大森郁子

司 会 中央区社協事務職員 芳賀浩子

④発表者 南区澄川地区社協 事務局長 中川俊徳

司 会 南区社協事務職員 辻 岳

⑤発表者 西区発寒地区福まち 副運営委員長 松野倉治

清田区ふれあいネットワーク平岡北 代表 横山由美子

司 会 西区社協事務局次長 中路康夫

⑥発表者 北区篠路ボランティア会 会長 今井喜多美

司 会 北区社協事務局次長 斉藤宏子

⑦発表者 厚別区もみじ台地区福まち 東もみじ台福祉委員会 熊倉政和

司 会 厚別区社協事務職員 西村香保里

【平成 13 年度】

日時 平成 13 年 10 月 30 日(火)10:00~15:40

場所 札幌市社会福祉総合センター

内容

○基調講演 「小地域ネットワーク（目配り運動）について」

講 師 七飯町地域福祉推進事業 大沼地区地域福祉推進会議 会長 渡辺明生

○シンポジウム 「地域福祉のネットワークを築こう」

◇介護予防・健康増進事業への取り組み～地域ネットワークとすこやか倶楽部～

発表者 西区在宅介護支援センター山の手 介護福祉士 石崎直樹

◇障がいのある人や家族の側から始まった「地域・生活・支援」サービスとこれからの地域ネットワークづくり

発表者 社福)札幌この実会中央区サポートセンターい〜な・い〜ず 室長 大久保薫

◇地域でのネットワークを築こう

発表者 NPO 法人ホームヘルパーノア 代表 沢出桃姫子

◇厚別東地区福まちの活動について

発表者 厚別東地区福まち 運営委員長 太田義夫

司 会 札幌市ボランティア研修センター ボランティア推進係長 佐藤 聡

○分散会（7グループ）

共通テーマ ①地域でのネットワークのあり方について

②見守り、安否確認の方法について

司 会 中央区社協事務局次長 馬場伸哉 豊平区社協事務局次長 大能文昭
北区社協事務局次長 斉藤宏子 南区社協事務職員 佐藤朋紘
東区社協事務局次長 浜田和美 手稲区社協事務局次長 松原幸一
白石区社協事務局次長 吉藤義知

【平成 14 年度】

日時 10月30日(水)10:30~15:30

場所 札幌市社会福祉総合センター

内容

- ビデオ上映 「一緒にやりましょうよ! (札幌市社協作成福まちビデオ)」
- 実践報告 「福まち活動でコミュニティの再構築を」
 - ◇パソコンメール (写真) でコミュニティづくり
発表者 中央区東北地区福まち 副会長 藤田孝士
 - ◇訪問活動でコミュニティづくり
発表者 東区鉄東地区福まち 事務局長 畠田松一
 - ◇子育てサロンでコミュニティづくり
発表者 豊平区中の島地区福まち 事務局次長 河井 博
 - ◇拠点を生かしてコミュニティづくり
発表者 西区八軒地区福まち 事務局長 磯部定成
- グループ討議 (20グループ)
「ふれあい交流活動について考える “高齢者よ外に出よう”」
 - ①地域での訪問活動のあり方について
 - ②地域での福まち推進員、協力員の活動のあり方について
 - ③地域での交流の場づくりについて

【平成 15 年度】

日時 10月30日(木)10:30~15:30

場所 札幌市社会福祉総合センター

内容

- 講演 「2015年の高齢者介護研究報告から今後の地域福祉を考える」
講 師 NPO法人シーズネット 代表 岩見太市
- 基調報告 「札幌市地域福祉市民活動計画の策定について」
説 明 札幌市社協地域福祉課長 馬場伸哉
- 分科会 (5グループ)
 - ①福まちセンター、民生委員・児童委員、町内会の連携
司 会 中央区社協事務局次長 中路康夫
南区社協事務局次長 佐藤朋紘
 - ②福祉推進委員会 (福祉の会) での活動
司 会 北区社協事務局次長 辻 岳
厚別区社協事務局次長 大下和章
 - ③地域型在宅介護支援センターとの連携

司 会 手稲区社協事務局次長 大石 純
ボランティア研修センター 荒 正和

④ひと昔前に戻って子どもを地域で育てよう

司 会 豊平区社協事務局次長 大能文昭
清田区社協事務局次長 吉藤義知

⑤いきいきサロン活動をひろめよう

司 会 東区社協事務局次長 樋口 弘

【平成 16 年度】

日時 平成 16 年 10 月 18 日 10:00～15:40

場所 札幌コンベンションセンター

内容

○講演 「校区（小地域）での“見守り・助け合い・話し合い”のしくみについて」

講 師 北九州市社会福祉協議会 福祉部長 渡辺良司

○シンポジウム 「こんにちは！何か困ったことはないですか？の声かけから支え合う地区へ」

◇福まち活動で広がった絆

発表者 北区拓北・あいの里福まち 運営委員長 三上武美

◇悩みながら手探りで進めてきた地区福まちの 10 年とその成果

発表者 南区藤野地区野々沢福祉推進委員会 会長 日野司朗

◇北九州市における見守り・安否確認の体制づくり

発表者 北九州市社会福祉協議会 福祉部長 渡辺良司

司 会 札幌市ボランティア研修センター 運営委員長 川本俊憲

○分科会

①理想の福まちを考える～対象者を支える訪問、町内の見守りの輪、福まちの理想を討論しよう～

発表者 中央区東北地区福まち 副会長 藤田孝士

清田区北野地区福まち 運営委員長 一瀬ヒロ

助言者 北九州市社会福祉協議会 福祉部長 渡辺良司

進 行 南区社協事務局次長 佐藤朋紘

清田区社協事務職員 佐竹勝寿

②小さい地域での見守り・訪問のしくみ～組織づくりにむけた運営委員のリーダーシップ～

発表者 厚別区厚別西地区福まち センター長 久郷光徳

南区南沢地区福まち 事務局長 須藤八恵子

進 行 厚別区社協事務局次長 大下和章

③対象者をみんなで見守る町内の輪～小さい地域での見守り・訪問活動を始めよう～

発表者 北区太平百合が原地区内外太平福祉の会 総務部長 酒井 薫

清田区里塚・美しが丘地区福まち 運営委員長 黒田長九郎

助言者 南区藤野地区野々沢福祉推進委員会 会長 日野司朗

進 行 北区社協事務局次長 辻 岳

④ふれあい交流から見守りの輪を広げよう～行事で顔をあわせて仲良くなって信頼関係づくり～

発表者 厚別区青葉地区社協 副会長 小田桐正

東区北光地区福まち 事務局長 掛端真知子

進行 東区社協事務局次長 樋口 弘

⑤調査・点検活動から対象者のニーズをつかもう

～“孤独・閉じこもり”を地域からなくそう、ふれあいいいききサロン～

発表者 白石区東札幌地区福まち 副委員長 沖中典子

西区発寒北地区社協 幹事 小林達子

進行 白石区社協事務局次長 前田隆之

⑥日常生活支援活動の情報基地（拠点）の活用を考えよう

～訪問時の情報交換、ふれあいカード整備、福祉相談室など拠点を有効活用～

発表者 中央区幌西地区福まち 運営委員長 森竹俊夫

白石区菊の里地区福まち 運営委員長 荒木都代子

進行 中央区社協事務局次長 中路康夫

⑦関係機関につないでニーズを解決していこう

～痴呆の高齢者、少し気がかりな親子、関係機関へつなげる役割が大切です～

発表者 豊平区平岸地区福まち 運営委員長 篠原 清

手稲区手稲鉄北地区福まち 事務局長 柴田圭子

進行 豊平区社協事務局次長 大能文昭

⑧訪問活動のコツ！ お年寄りとのコミュニケーションを学ぶ

講師 手稲区在宅介護支援センターほしおき 南部広司

進行 手稲区社協事務職員 竹田明弘

【平成 17 年度】

日時 平成 17 年 11 月 14 日(月)13:00～16:30

場所 札幌コンベンションセンター

内容

○座談会 「これからの地域の福祉力向上を考える」

発表者 札幌市長 上田文雄

青葉地区社協 副会長 小田桐 正

美園地区福まち 運営委員長 石井志津子

司会 札幌市社協地域福祉課長 馬場伸哉

○分科会

①“わがまち”の福まちを語ろう

発表者（発表地区多数のため役職を省略しております）

〔中央区〕	幌西地区	森竹俊夫	南円山地区	土屋公保
	苗穂地区	大島 脩	大通地区	志村芙美子
	円山地区	山入幸子	東地区	戸佐一郎
	西地区	山中一夫	豊水地区	高柳 司
〔北区〕	新琴似地区	阿部重雄	屯田地区	青木節子
	新琴似西地区	菊池貴之	鉄西地区	瀬野尾嘉明
	拓北・あいの里地区	阿部鈴子	太平百合が原地区	小田島清美
〔東区〕	元町地区	中村四郎	北栄地区	喜多成治
	伏古本町地区	金子守治	札幌地区	佐藤 武

	丘珠地区	小木國夫	北光地区	川口哲郎
〔白石区〕	菊水地区	細野明敏	東札幌地区	新保由紀子
	白石東地区	林由美子	菊の里地区	荒木都代子
	白石地区	阿部敏雄		
〔厚別区〕	もみじ台地区	舘山佳央	厚別南地区	平沖 巖
	厚別西地区	久郷光徳		
〔豊平区〕	福住地区	渡部秀雄	平岸地区	篠原 清
	西岡地区	佐川昭彦	豊平地区	五十嵐政三
	月寒地区	澁谷清孝	東月寒地区	船越一珠子
	南平岸地区	沼沢 実		
〔清田区〕	北野地区	田中穰生	清田中央地区	中南美幸
	里塚美しが丘地区	黒田長九郎		
〔南区〕	真駒内地区	中島美子	藤野地区	児玉 浩
	簾舞地区	柴田法文	藻岩下地区	松井 啓
	藻岩地区	門脇春夫	南沢地区	亀山興亜
	芸術の森地区	塩田恒雄		
〔西区〕	八軒中央地区	木村愛子	発寒北地区	菊地 巖
	琴似地区	景山 功	山の手地区	野村敬子
〔手稲区〕	星置地区	伊澤敏幸	前田地区	手倉森洋子
	富丘西宮の沢地区	工藤重民	手稲鉄北地区	向出良孝

②福祉推進委員会の運営・活動を支える地区福祉まちセンター

発表者 北区北地区福まち 副運営委員長 辻野キミ
 西区発寒地区福まち 運営委員長 馬場強逸
 清田区平岡地区福まち 運営委員 横山由美子
 北区新川地区福まち 運営委員長 山口 穰
 手稲区手稲中央地区福まち 運営委員長 濱谷信子
 東区栄東地区福まち 運営委員長 月宮宏明

進 行 東区社協・清田区社協

③専門機関とともに進める在宅支援活動

発表者 南区石山地区福まち 事務局長 佐藤 正
 手稲区新発寒地区福まち 事務局次長 竹内綾子
 西区八軒地区福まち 運営委員 平中優子
 厚別区厚別中央地区福まち センター長 畠山義教
 中央区東北地区社協 副会長 藤田孝士

進 行 厚別区社協

④福まち活動とまちづくり

発表者 北区篠路地区福まち 常務理事 渡辺 博
 中央区西創成地区社協 会長 松野哲也
 白石区北白石地区福まち 運営委員長 森 誠二
 南区澄川地区社協 会長 大石昇司
 白石区北東白石地区福まち 運営委員長 島田信也

東区苗穂東地区福まち 運営委員長 八田 力

進 行 豊平区社協

⑤地域で進める介護予防活動

発表者 南区定山溪地区福まち 事務局長 坂本秀一
白石区東白石地区福まち 運営委員長 中村昌彦
東区栄西地区福まち 運営委員長 笠原福雄
中央区宮の森大倉山地区社協 副会長 大森郁子
豊平区中の島地区福まち 運営委員長 藤岡喬一
西区西野地区福まち 事務局次長 岩崎周市

進 行 西区社協

⑥町内会と民生委員が連携した見守り活動を目指して

発表者 北区幌北地区福まち 運営委員長 梶浦茂男
清田区清田地区福まち 運営委員長 牧野 晃
西区西町地区福まち 運営委員長 原田光雄
厚別区厚別東地区福まち 運営委員長 中川喜久雄
東区鉄東地区福まち 事務局長 島田松一
手稲区稲穂金山地区福まち 事務局長 柳橋敏明

進 行 北区社協・手稲区社協

【平成 18 年度】

日時 11月2日(木)13:30~16:00

場所 札幌市社会福祉総合センター

内容

○座談会Ⅰ 「地域における介護予防の取組みの現状」

対談者 北野地区福まち 運営委員長 一瀬ヒロ
札幌市北区介護予防センター新琴似 センター長 牧野美穂
白石区役所保健福祉部 保健支援係長 岩井恵美子

司 会 浅井学園大学人間福祉学部 助教授 林 恭裕

○座談会Ⅱ 「多様な方々の参加と連携」

対談者 北光地区福まち 事務局次長 掛端真知子
特定非営利活動法人つばさ応援団 理事 燕 信子
厚別区社協 事務局次長 大下和章
西区役所保健福祉部 活動推進担当係長 長沼秀直

司 会 浅井学園大学人間福祉学部 助教授 林 恭裕

※平成 18 年度は「福まち発 地域福祉市民活動フォーラム」として開催

札幌市福祉のまち推進事業 10年のあゆみ

発行：社会福祉法人札幌市社会福祉協議会
〒060-0042 札幌市中央区大通西 19 丁目 1-1
札幌市社会福祉総合センター内
☎ (011) 614-3345 (代表)
FAX (011) 614-1109

発行日：平成 19 年 3 月

印刷：株式会社 アイワード
